

**中川** アフラックのCM撮影、大変だったみたいですね。結婚式までカメラが入って来てあれ、ノーギャラに近かったんですってね。体を張った理由って何ですか。

**加藤** がんになってみて、このままじゃ世の中に何も貢献しないで死んでしまう、自分の人生何だったの、と意識するようになりました。自分ができることは引き受けたらと思ったんです。CMのメッセージが、がんの早期発見、早期治療なので、それに役立てば嬉しいです。

**中川** たしかに、がんで死なないためには、早期発見に尽きます。子宮頸がんの死亡率は30年でほとんど下がっているんですけど、ステージごとの見てみると、30年前と変わってない。治療が進歩したんじゃないかって、発見が早くなっただけなんですよ。

**加藤** 一般に画像診断の精度が上がると、以前ならステー

ず。がんには死のイメージが付きまとい「縁起でもない」から、日常で考えることを多くの日本人が回避しているんです。メタボには死のイメージがないから、飲み屋で話題にできるし、国も言いやすい。実に歪んでいるというか、精神的に幼いと思います。でも加藤先生のように自分の体がんが生じてみると、否応なしに死を考えざるを得なくなる。死の側から生を照らすというのかな。それって実は人間が上等になることではないでしょうか。

**加藤** 自分の時間が限られていることを知るのには大事だと思います。時間の有限性に気づいたとき、短期間に人間が急成長することはあると思います。その意味では、がんになって良かったとはとても言えませんけれど、悪くもないかなと思います。結婚を意欲したのも、がんでスイッチが入ったからです。

## 加藤大基×中川恵一

# 東大の がん治療医が CMに出てみて

写真のようなテレビCMに見覚えがないでしょうか。実は出演しているのは、『東大のがん治療医が癌になって』（ロハス・メディカルブック）の著者・加藤大基医師です。CM出演のいきさつや、本出版後の体調や心境などを共著者で上司の中川恵一・東大放射線科准教授と対談してもらいました。

ステージIと判定されたものがIIやIIIになったりするので、治療が同じでも、見かけ上は成績が良くなることもありますね。

**中川** そう。結局、がんで生死を分けるのは、治療側の問題ではなくて、がんそのものの性質です。

**加藤** だから早期発見のため

に、もっと検診を受ける人が増えてほしい、と思います。死亡率を下げる唯一の道なのに、なぜ、がん検診にもっと公費を使わないのか、と憤りを覚えます。

**中川** 国が推進しているのはメタボ健診ですもんね。結構この問題は根が深いと思いま

**中川** 結婚は実に喜ばしいことだと思います。世間一般では「再発して死んじゃうかもしれないのに、お嫁さん勇気あるわね」と見られてしまうが、誰だって死亡率100%で明日死ぬ可能性だってあるんだから、がん患者さんだけ特別扱いするのはおかしいんです。しかも2人に1人ががんになる時代なのに。

**加藤** 術後5年経って完治となっていないのに、という点は相手に悪いなと思いましたが、けれど、むしろ逡巡している時間があったら、悠長なことしていたら、がんでなくとも人生すぐ終わっちゃうと思います。

**中川** 今年、加藤先生に実務を取り仕切ってもらって、がん患者さんの死生観を調査しているわけですが、始める前には、患者さんが可哀想だと

いう意見もありました。でも始めてみたら、皆さん実に協力的です。がん患者さんは、死を身近に肉体感覚として捉えている分、精神的に成熟している面はあると思います。

加藤先生も、私など及びもつかないモノが見えているんでしょう。ぜひ今後色々教えてくださいたいと思います。

**加藤** そこまで大したものではなくても、患者の体にこんなことが起きていると医者は知らないだろうな、というのがいまだに結構あります。激しい苦痛や生命の危険を伴う「合併症」は知っていても、些細な「症状」は患者さんが伝えない限り分からないですよ。

### 加藤大基

かとう・だいき 1971年生まれ。東京大学医学部卒業。06年4月に肺がんの影を自分で見つけ、翌月に東大病院で切除手術を受ける。がんのステージはIA、現在まで無再発生存。

### 中川恵一

なかがわ・けいいち 1960年生まれ。東京大学医学部卒業。同附属病院緩和ケア診療部長。毎日新聞にて『Dr.中川のがんを知る』連載中。近著に『がんのひみつ』（朝日出版社）。



税込み1575円、好評発売中。ご注文はamazon.co.jpか、お近くの書店へ。

